

公正で寛容な真の神エホバが、今日最も嫌っておられる宗教が偽善的なキリスト教であることをご存じでしたか？どうしてだと思いますか？

はい、とても重要なテーマですね。聖書の記述を考えると、エホバが宗教を評価される際、単に「神を信じているか」「キリスト教を名乗っているか」ではなく、神の性格を正しく表し、神の望まれる生き方をしているかを重視される、という点が浮かび上がります。

では、なぜ偽善的な宗教が神にとって重大な問題となるのでしょうか。聖書から幾つかの理由を考えられます。

1. 神の名前を使いながら、神の性格を正しく表していない

イエスは、宗教指導者たちの偽善を厳しく指摘しました。

「この民は口先では私を敬うが、心は私から遠く離れている」

— マタイ 15:8

神を敬う言葉を口にしながら、実際の行動が神の公正、憐れみ、愛と一致していなければ、人々に神について誤った印象を与えてしまいます。

例えば、神は寛容で憐れみ深い方なのに、宗教指導者が人々を不当に扱い、苦しむ人に冷淡であれば、神まで冷酷な方であるかのように思われるかもしれません。

神の名を用いることと、神の性格を反映することは、全く別のことなのです。

2. 愛よりも、権威や自分の利益を優先する

イエスは、宗教指導者たちが人々に重い負担を負わせながら、自分たちは助けようとしなかったことを批判しました。（マタイ 23:4）

ここから、次のような問題が見えてきます。

- 人々を助けるより、自分たちの地位を守る。
- 弱い立場の人を憐れむより、規則や形式を優先する。
- 神への愛を教えながら、実際には人々へのアガペー愛を示さない。
- 自分たちの誤りを認めず、責任を回避する。

エホバが公正な方であるなら、宗教的な権威を持つ人がその立場を利用して他の人を傷つけることは、特に重大な問題だと考えられます。

3. 宗教的な行為によって、不正を覆い隠す

イエスはマタイ 23:23 で、律法の細かな点には注意を払う一方、より重要な「公正と憐れみと忠実さ」を無視する宗教指導者を批判しました。

これは深い教訓です。

祈り、礼拝、聖書の知識、宗教的な活動そのものが、必ずしも神に喜ばれることの証拠にはならないということです。

例えば、宗教活動に熱心でも、他の人を許さず、困っている人に無関心で、自分の過ちを隠そうとするなら、外面的な敬虔さと内面の人格との間に大きな隔たりがあります。

神が求めておられるのは、宗教的な形式だけでなく、心から生じる公正と愛なのです。

4. 人々が神を知り、愛する機会を奪ってしまう

私は、これも特に重大な点だと思います。

宗教に偽善があると、人々は宗教そのものに失望するだけでなく、神について知る機会まで失ってしまうことがあります。

「神を信じる人があのような行動をするなら、神も信頼できないのではないか」と考えるかもしれません。

しかし、宗教を名乗る人の行動と、聖書が教える神の性格とは、分けて考える必要があります。

イエスはヨハネ 17:3 で、永遠の命を得ることと、唯一の真の神と、神が遣わしたイエス・キリストを知ることを結び付けました。

そのため、神について誤った印象を与える宗教的な偽善は、人々が神との親しい関係を築く妨げにもなり得ます。

では、私たちは何を学べるでしょうか？

ここで一つ、重要な区別があります。

聖書は宗教的な偽善を厳しく批判していますが、今日、どの宗教をエホバが最も嫌っておられるかという順位を、人間が独自に断定することには慎重であるべきです。神は人の心を完全に知っておられるからです。(サムエル第一 16:7)

むしろ、イエスが示した判断基準を、自分自身にも当てはめることができます。

- 私は、言葉だけでなく行動でも愛を示しているだろうか。
- 自分に不都合な時にも、公正で寛容でいられるだろうか。
- 他の人の欠点を指摘する前に、自分の欠点を認めているだろうか。
- 私と接する人は、私の振る舞いを通してエホバの愛や憐れみを感じられるだろうか。

こうした自己吟味は、宗教的な偽善を避けるうえで大切です。

そして、以前お話ししたアガペー愛とも深くつながります。アガペー愛は、単に正しいことを語るだけではなく、相手の幸福を願い、実際の行動で愛を表すことだからです。

最後に、ぜひ一緒に考えてみたいことがあります。

イエスが宗教指導者たちの偽善を厳しく批判した一方で、罪を犯した人や弱い立場の人には憐れみを示したのは、なぜだと思われますか？

この対比を考えると、エホバの公正さと寛容さ、そして偽善に対する見方を、さらに深く理解できると思います。

エホバは現在偽善的な偽りの宗教に属していようがまいが、本当に誠実な人々を助けたいと思っておられるからだと思います。真の神エホバを崇拝する真の宗教をどうしたら見分けることができるか、宣教で人々をどのように援助できますか？

とても大切な点だと思います。エホバが誠実な人々を助けたいと願っておられるなら、私たちが宣教で目指すのは、単に人々に宗教を選んでもらうことではなく、誠実な人が神について正確に知り、自分自身で真理を確かめ、エホバとの親しい関係を築けるように援助することですね。

そのために、2つのことを考えてみましょう。

1. 真の宗教を見分けるための聖書の基準

イエスは、真の崇拝者を見分けるための明確な基準を教えました。

① 神についての真理を教えているか

ヨハネ 17:3、4:23、24

神がどんな方なのか、神のお名前や目的、人類に対する愛について、聖書に基づいて正しく教えているかを調べます。宗教の伝統や人間の考えを聖書より上に置いていないかも大切です。

② 本物の愛を実践しているか

ヨハネ 13:34、35

イエスは、弟子たちが互いに愛し合うことによって見分けられると教えました。口先だけでなく、思いやり、許し、助け合い、民族や国籍を超えた愛が実際に表れているかを見ます。

③ 清い行いと道徳を重視しているか

ヤコブ 1:27、ガラテア 5:22、23

神への崇拝が、誠実さ、温和、自制、憐れみなどの特質を育てているかを確認めます。宗教的な肩書や知識だけでなく、日常生活でどんな実を生み出しているかが重要です。

④ キリストの教えと手本に倣っているか

ヨハネ 18:36、マタイ 5:44、使徒 10:34, 35

敵を愛すること、人を分け隔てしないこと、神の王国を重視することなど、イエスが教え、実践した事柄に従っているかを調べます。

これらの基準は、特定の宗教名だけで判断するのではなく、聖書を使って自分で調べるためのものです。もちろん、個々の信者が不完全であることと、宗教全体が何を教え、どんな実を生み出しているかという問題は、区別して考える必要があります。

2. 宣教で、誠実な人々をどのように援助できるか

ここで大切なのは、相手にすぐ結論を受け入れてもらおうとするよりも、相手自身が聖書の中に価値あるものを発見できるように助けることだと思います。

第1段階: 相手の気持ちや疑問を理解する

例えば、こう尋ねられます。

「宗教について、いろいろな考え方がありますね。もし神がいるとしたら、どんな神であってほしいと思われませんか？」

相手の答えをよく聞けば、その人が求めているものが、希望なのか、公正さなのか、人生の意味なのかが分かってきます。

第2段階: 聖書の言葉そのものを一緒に調べる

例えば、ヨハネ 17:3 を読んで、「神を知ることが、どうして永遠の命につながるのでしょうか」と尋ねてみます。

最初から説明を全部与えるのではなく、相手自身に聖句から発見してもらいます。自分で確かめた真理は、納得して受け入れやすくなります。

第3段階: 比較し、確かめる方法を教える

「この教えは聖書のどこに書かれているでしょうか」「イエス自身はどう教えていましたか」と一緒に調べます。

自分たちの主張に都合のよい聖句だけでなく、文脈も確認します。使徒 17:11 に登場するベレアの人たちは、教えを聞いた後、聖書を注意深く調べました。

第4段階: 学んだことが生活に役立つと実感してもらう

例えば、許すこと、感謝を育てること、心配事について祈ることなど、実践できる点を一つ選びます。

その後、「この聖書の考え方を試してみて、何か変化がありましたか」と尋ねます。真理の価値を、知識だけでなく生活の中でも感じてもらえます。

3. 日本で宣教する際に、特に意識したいこと

宗教に対する警戒心がある人にとって、「どの宗教が正しいか」という問いは、時に重く感じられるものです。

そこで、最初から宗教の正しさを議論するよりも、その人がすでに大切だと感じていることから始めるとよいでしょう。

例えば、

- 「不公平なことがなくなる世界があったら、どんなにいいでしょうね」
- 「人を心から愛することは大切ですが、実践するのは難しい時もありますね」
- 「聖書には、人間の幸福について意外なことが書かれているんですよ」

こうした会話は、相手の考えを否定せずに、聖書を調べる入口をつくります。

また、相手が疑問を持ったり、すぐに賛同しなかったりしても、それを悪いことと考えることも大切です。真理を本当に理解するには、時間が必要な場合があります。

コリント第一 3:6, 7 は、植える人と水を注ぐ人がいても、成長させるのは神だと教えています。この原則を思い出すなら、宣教で焦らず、相手の自由意思を尊重しながら援助できます。

4. 宣教の最も深い目的とは？

私は、ここにアガペー愛との深いつながりがあると思います。

宣教の目的を単に「自分の説明が正しいと認めてもらうこと」に置くなら、相手が賛同しない時に失望しやすくなります。

しかし、「この人がエホバの愛、公正さ、知恵を知り、幸福になるための助けを得てほしい」と願うなら、相手の反応にかかわらず、誠実に愛を示し続けられます。

つまり、

相手を説得することより、相手が真理を発見できるように援助すること。

これが、誠実な人々を助けたいというエホバの願いに倣ううえで、大切な姿勢ではないでしょうか。

最後に、一つ考えてみたいことがあります。

宣教で出会う人の中には、聖書の内容には関心があるのに、「宗教はどこも同じではないか」「宗教団体には偽善があるのではないか」と警戒している人もいます。

そのような人に、宗教の正しさを直接主張することなく、真の崇拝の価値を自分で発見してもらうには、どんな質問や聖句が最も効果的だと思いますか？

ありがとうございます。ぜひご教授ください。

こちらこそ、ありがとうございます。今回のテーマは、宣教においてとても大切だと思います。

特に、宗教に対して警戒心を持っている人に、最初から「この宗教が正しいです」と説明するより、相手自身が聖書を調べ、「これは本当に価値のある教えだ」と気づけるように援助することができれば、素晴らしいですね。

そのための質問と聖句を、実際の宣教で使える形で考えてみましょう。

1. 相手の心を開く5つの質問と聖句

① 神は本当に人間を気遣っていると思いますか？

聖句：ペテロ第一 5:7

「神があなた方を気遣ってくださるからです」という言葉に注目します。

会話の例

「世の中には心配事や苦しみがたくさんありますね。もし神が本当に私たちが気遣ってくださるなら、それはどんな意味を持つと思われますか？」

ねらい：神を遠い存在としてではなく、自分に関心を持つ方として考えてもらいます。

② 人間の教えと神の教えを、どう区別できるでしょうか？

聖句：使徒 17:11

ベレアの人たちは、聞いた教えが聖書と一致しているかどうかを注意深く調べました。

会話の例

「宗教にはいろいろな教えがありますね。もし本当に神の考えを知りたいなら、何を基準にして確かめるのがよいと思われますか？」

ねらい：宗教指導者や伝統を無条件に信じるのではなく、聖書そのものを調べる大切さに気づいてもらいます。

③ 本当に神を愛している人は、どんな人でしょうか？

聖句:ヨハネ 13:34, 35

イエスは、弟子たちが互いに愛し合うことによって見分けられると教えました。

会話の例

「宗教については意見が分かれても、互いに心から愛し合うことは大切ですよね。イエスは、ご自分の弟子を見分けるために何が重要だと教えたと思われますか？」

ねらい：宗教の名称や外見よりも、実際に示される愛に注目してもらいます。

④ 神は人間をどんな将来へ導きたいのでしょうか？

聖句:啓示 21:3, 4

神が人々の涙や死や苦しみをなくすという希望が述べられています。

会話の例

「もし神が、死や苦しみのない世界を実現すると約束しているなら、その約束が本当かどうか、調べてみたいと思われませんか？」

ねらい：宗教を論争の対象としてではなく、自分の人生に希望を与えるものとして考えてもらいます。

⑤ 神について、もっと知ることは価値があるのでしょうか？

聖句:ヨハネ 17:3

イエスは、唯一の真の神とイエス・キリストについて知ることを、永遠の命と結び付けました。

会話の例

「聖書は、神について知ることがとても大切だと教えています。もし神が本当にどんな方なのか分かったら、毎日の生活や将来についての考え方は変わると思われませんか？」

ねらい：聖書を学ぶこと自体に価値があると感じてもらい、継続的に調べる動機を育てます。

2. 「宗教はどこも同じでは？」と言われたら

この反応は、宣教で大切な機会になると思います。相手の疑問を否定せず、むしろ一緒に考える入口にできます。

例えば、次のように会話できます。

確かに、宗教にはいろいろな違いがありますし、宗教を名乗る人の行動に失望することもありますね。

ところで、イエスは、ご自分の弟子を見分ける方法について何と教えたと思われますか？

ヨハネ 13 章 34, 35 節には、互いに愛し合うことが記されています。

そう考えると、宗教を見分ける時には、名前だけでなく、聖書をどれほど正しく教えているか、また本当に愛を実践しているかを調べるのが大切なのかもしれませんね。

この話し方のよい点は、相手に結論を押し付けず、イエス自身の教えを判断基準にできることです。

3. 日本の人々に特に役立つ、3 つの工夫

相手の警戒心を尊重する

「信じてください」より、「一緒に確かめてみませんか」と伝えます。相手に選択の自由があると感じてもらうことが大切です。

一度に多くを教えない

一つの質問、一つの聖句、一つの発見で十分な場合があります。相手が考える時間を大切にします。

相手の反応ではなく、愛を示せたかにも注目する

すぐに関心を示さなくても、誠実に耳を傾け、敬意を持って接すること自体に価値があります。コリント第一 3:6, 7 が示すように、成長をもたらすのは神です。

4. 私が特に大切だと思う、宣教の秘訣

それは、相手に「自分は間違っていた」と感じさせることより、「聖書には、まだ自分が知らなかった宝がある」と感じてもらうことです。

例えば、ヨハネ 17:3 を読んだ時、単に神の名前や教理を覚えてもらうだけでなく、「神を知ること、神との親しい関係を築くことでもある」と一緒に考えることができます。

また、ヨハネ 13:34, 35 からは、愛について知識を得るだけでなく、実際に愛を示す人になれるという希望も伝えられます。

このように聖書を調べる楽しさと、生活に役立つ実感が結び付くなら、相手は自分からもっと知りたいと思うかもしれません。

そして、宣教をする私たち自身も、相手への愛、忍耐、寛容さを培うことができます。宣教は、相手を助けると同時に、自分自身がキリストに倣う者へと成長する機会にもなるのですね。

最後に一つ、実践的な提案です。次の宣教では、相手に一つだけ質問し、答えを急がずによく聞き、その人の答えに合った聖句を一つ紹介してみてください。たくさん話すことよりも、相手が一つの真理を自分で発見できることを目標にします。

そうした小さな機会の積み重ねが、誠実な人々をエホバへと導く助けになるのではないのでしょうか。